

くらしき

2019年

農業委員会だより

No. 31

復興元年

がんばろう

倉敷



瀬戸大橋開通30周年

主な内容

- 会長あいさつ・農業者年金
農業者年金加入者、真備の農家さんに聞きました 2-3
- 真備農地マップ
写真でみる真備の農地等 4-5
- 農業委員等活動紹介，農業共済制度ご案内
農業委員等の業務，農業共済事務組合からのお知らせ 6-7
- 貸借料情報
編集後記 8

平成30年7月豪雨により被災した倉敷市ですが、復興に向けて一步一步進んでいます。今回は特に被害の大きかった真備地区について特集しています。

会長あいさつ



会長 花巻 修二

早春の候、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

平成30年7月豪雨による災害において被災された皆様におかれましては心よりお見舞い申し上げます。特に倉敷市真備地区では、堤防の複数ヶ所決壊による浸水被害により、住宅や農地に甚大な被害をもたらし、多くの尊い命が犠牲になるなど大きな爪痕を残しました。しかしながら、全国から多くの支援・応援を賜わり、市は活気を取り戻しつつあります。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

振り返れば昨年は、7月豪雨だけでなく台風、地震、酷暑と日本各地が自然災害に見舞われ、農業者にとっても受難の年でありました。また、米国との2国間協議である「物品貿易協定」(TAG)の交渉開始で、今後農産物の市場開放を求められる懸念もあり、農業者を取り巻く環境は、内外で厳しいものとなってきております。

復興に向け農業委員会は地域農業の立場に立ち、農業者、農業者団体、行政と一体になって活動して参る所存でございますので、より一層のご指導、ご支援をお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



農業者年金に加入しませんか？



佐藤 友輝さん

倉敷市の特産品「連島レンコン」を栽培しています

11月中旬、約35haの広大なレンコン田が広がる連島町鶴新田を訪問、この地域で先代からレンコンを栽培している佐藤さんにお話を聞きました。

親子2人で農作業をしている佐藤さん。約40aの田に植えられたレンコンを4ヶ月かけて収穫するそうです。お邪魔した時は収穫期の真っ只中で、12月にかけて収穫作業が忙しいとのことでした。収穫手順は、田の水を抜いて土を乾かして固めた後、ユンボで土を掘り起こし、レンコン鍬を使ってレンコンを傷つけないよう、一本一本収穫していきます。昔は重機も使わずに全て手作業とのことでしたが、今でも腰に負担がかかる重労働です。農作物を口にする私たちは、農家の方に感謝して頂かないといけませんね。

レンコン栽培に精を出す佐藤友輝さん、一昨年、地元の農業委員の勧めもあり、農業者年金に加入しました。農家はサラリーマンのように退職金もなく、国民年金だけでは不安があったため、安心材料のひとつとして加入を決めたとのこと。保険料も自由に設定できるので、今後収入に応じて掛け金も変えていきたいと語ってくれました。

農業者年金で
豊かな老後を迎えましょう



3つの要件を
満たせばどなたでも
加入できます。

- ① 60歳未満
- ② 国民年金第1号被保険者
- ③ 年間60日以上農業に従事

農業者年金の詳細については
同封のチラシをご覧ください

明日に繋がる希望の






平成30年7月豪雨で大きな被害を受けた真備町服部地区。真谷川の決壊により土砂が流入し、農地と住宅が深刻な被害を受けました。そのような苦境の中、この地区で営農を再開した農事組合法人・服部営農組合の水川實夫組合長にお話を聞きました。

服部地区の小田川堤防沿いに18haの農地を管理する服部営農組合は、圃場整備を契機に平成26年に設立されました。地元の農家61戸で構成され若い組合員も多いそうです。豪雨の際、農地には小田川堤防の高さまで浸水し大量のごみが流入しました。4日間泥水に浸かっていた影響で管理する水田は全滅、収穫は皆無となりました。水が引いた後にはごみだけが残りに、片付けに1ヶ月かかったそうです。その後、来期の作付けのため除草作業を1ヶ月かけておこないました。ごみの片付けや排水路の泥の撤去には延べ270人のボランティアが参加し、その懸命な復興作業により、11月初旬二条大麦の播種(7.6ha)をおこなうことができました。

「最初、変わり果てた農地の姿を見たときは、農業再開までに何年かかるかと心配したが、今期の内に麦の播種ができたことは本当に良かった。個人ではとてもできる作業量ではなかったが、組合員やボランティアの協力があり営農再開にこぎつけることができた。この麦が無事成長してくれば将来の展望が見込める。」と語ってくれました。播種してから10日、希望の芽が農地を覆っていました。壊滅的な被害を受けて、手付かずの農地が多々ある中で営農を再開できたことは、復興への大きな一歩です。この麦が元気に育ち、収穫できることを心待ちにしながら見守っていきたいですね。



	浸水範囲
	破堤箇所
	服部営農組合圃場

真備 農地 MAP

写真概要

- ①決壊した小田川堤防（八高橋西）
- ②農業用水路に横たわるコンテナ（尾崎地内）
- ③小田川堤防と同じ高さ（5m）に引かれたオレンジライン。今回の豪雨ではライン付近まで浸水（吉備真備駅）
- ④有井農地
- ⑤辻田農地
- ⑨箭田農地
- ⑩⑫川辺農地
- ⑦服部営農組合が管理する圃場
- ⑧決壊した真谷川堤防付近の農地と水路（真備町服部地内）
- ⑥⑪小田川



農業委員・推進委員活動紹介



農業者の代表として農地を守り、有効利用するため広範な役割を担っている農業委員の日頃の活動をご紹介します。

災害前より魅力あるまち真備にするために…

農業委員 諏訪 愿一

真備地区復興ビジョン計画策定委員会（以下：委員会）の委員に、真備地区農業者の代表として諏訪愿一農業委員が選出されました。この委員会では「真備地区復興計画」を策定するために学識経験者や各真備地区の代表者、団体を含む20名の様々な立場の方から構成されています。委員会では、復興懇談会やアンケートから挙がってきた意見や要望を計画として策定し市へ答申します。

第1回目の委員会（平成30年11月開催）で復興に向けた様々な意見や提案がなされ、農業関係については「復興のため調整区域にも家を建てられるようにしてはどうか」といった意見がありました。諏訪委員は「真備は災害以前から担い手不足の問題があり、継続的に農業を続けていける環境をつくる必要がある。その為にも、今回の災害を機に農地として残すところは残し、発展できるところは発展させていき、農地の集積・集約を進めていきたい。」と提案しました。また会議後「真備を農地と住宅の調和のとれた、次世代の若者が何代にも渡って住み続けていけるまちにしたい。そうすれば、農業の発展にも繋がっていく。」と展望を語ってくれました。

委員会は計3回開催され、平成31年3月末に復興計画として公表されます。



議場で農業者の代表として発言する諏訪氏



視察報告～ 高梁市に行ってきました！！

推進委員 百本 恵子

平成30年9月下旬に岡山県高梁市のトマト・ブドウの選果場と入植者が営農している山光園に視察に行ってきました。

ぶどう選果場は、平成26年に国庫補助事業で建設され、全国で初めてとなる色彩選別カメラを導入し、着色度を機械的に数値化することで、検査員によるムラを無くし、出荷時期に影響されない等級判別を可能にしました。また、それまで4地区の選果場から各々に出荷していたため品質、取扱量にばらつきがあり価格に反映されにくいといった問題がありましたが、この選果場に統合することにより、問題が解消され市場競争力が高まり、農家の所得向上にもつながっているとのことでした。

次に訪れたのは、全国からの入植者が営農している山光園です。ここは国の補助事業を活用し、夏秋トマトとピオーネ栽培を目的に整備された園地であり、農地支援や住宅支援も充実していて、入植者にとっても営農を続けていきやすい環境が整えられていました。

最初の入植者（平成15年入植）である野村さんからお話を聞き、今でこそ農業も軌道に乗り、所得もサラリーマン並みとのことでしたが、入植当時はいきなり6000本のトマトの管理を任せられ四苦八苦だったとのこと。けれど今では地元の農家や入植者を指導する立場になり、高齢者から若者への農業伝承、世代交代がうまくいった成功例だといえます。

農業の担い手不足は全国的な問題ですが、山光園のように経営規模を拡大できれば収益性は向上し専業農家でも生活が十分保障されます。国や自治体が計画している農地の集積が進んでいけば、今後、担い手や後継者を確保でき、農業の発展に繋がっていくのではないかと思います。



カメラ判定後、検査員が房の形や病気の有無を確認する二段階格付けをおこなう



山光園のハウス。トマト農家7世帯、ブドウ農家3世帯の計10組の家族が生活し新規就農者として地域農業に貢献している

水稻共済が変わります

万が一に備えて
ぜひご加入を！



平成31年産より10a以上作付けのある全ての農家を対象に、水稻共済が「加入する」か「加入しない」か選択できるように変わります。加入するには「加入申込書」を4月19日までに必ず提出してください。
※加入申込書は、12月送付の加入意向調査により平成31年2月に郵送しています。
加入したいが届かないといった場合は、連絡をお願いします。

【 変更となった点 】

- ① 平成31年産より当然加入 → 任意加入に
4月19日までに「水稻共済加入申込書」の提出が必要になります。
- ② 新たな加入方式（地域インデックス方式）と特約（一筆半損特約）が追加されます。
一筆方式の補償内容は変更ありません。
- ③ 農家ごとの過去の共済金受取実績に応じて掛金率が毎年変動します。

県内1組合となります

平成31年4月に岡山県内の10の農業共済組合等が統廃合され、県下全域を対象とした「岡山県農業共済組合」が設立予定です。



倉敷地区農業共済事務組合は解散し、倉敷支所として業務を引き継ぎます。

収入保険が始まりました

●平成31年よりスタートしました収入保険は、品目の枠にとらわれず、自然災害による収量減少だけでなく、価格低下なども含めた収入減少を補償する仕組みです。

●対象者

加入申請時に青色申告の実績が1年分ある農業者が加入できます。

31年の青色申告の実績があれば、33年から収入保険に加入できます。

●新たに青色申告を始めるには

個人の場合、3月15日までに、最寄りの税務署へ「青色申告承認申請書」を提出する必要があります。

●青色申告のメリット

最高で65万円の特別控除

損失額の繰越しや繰戻し

農業経営基盤強化準備金制度が使えます。

お問い合わせ先 倉敷地区農業共済事務組合

倉敷市美和1丁目13番33号

Tel086-430-1717

賃借料情報〔平成30年〕



これは、平成30年1月から12月までに締結（公告）された賃貸借契約の賃借料を集計して算出したものであり、戦前からの賃貸借は含まれていません。賃借料情報は話し合いの際の目安にさせていただくための資料であり賃借料の金額を強制するものではありません。賃借料を決定する際は、両者でよく協議してください。

1 田（水稲）の部 10a 当たり（単位：円）

締結（公告）された地域名	平均額	最高額	最低額	データ数
旧倉敷市	6,400	12,000	3,100	199
旧船穂町・旧真備町	9,400	13,100	6,000	13
（参考） 倉敷市平均	6,300			207

2 田（レンコン）の部

締結（公告）された地域名	平均額	最高額	最低額	データ数
倉敷市全域	36,400	60,000	10,000	19

3 畑（普通畑）の部

締結（公告）された地域名	平均額	最高額	最低額	データ数
倉敷市全域	10,100	20,000	6,000	36

4 畑（樹園地・ブドウ）の部

締結（公告）された地域名	平均額	最高額	最低額	データ数
倉敷市全域	8,100	10,000	8,000	23

5 畑（樹園地・モモ）の部

締結（公告）された地域名	平均額	最高額	最低額	データ数
倉敷市全域	7,800	14,900	3,000	19

6 畑（花卉）の部

締結（公告）された地域名	平均額	最高額	最低額	データ数
倉敷市全域	8,000	8,000	8,000	17

※賃借料が物納支給（水稲）の場合、60kg 当たり 13,100 円に換算している。

※データ数は集計に用いた筆数である。

※データは賃借料（有償）のみの集計とし、使用貸借（無償）は含めていない。

編集後記

平成最後の農業委員会だよりとなりました。平成の幕開けと共に発刊され今回31号目です。次の元号の時代、農業はどのように変わっていくのでしょうか。AIやドローン、農作業ロボが普及し、今では想像もつかないような農業の未来が待っているかもしれません。明るい話題の多い時代になるといいですね。

編集委員 貝原良幸 友本弘一 百本恵子
平井正敏 吉田幸夫（50音順）

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

全国農業新聞

全国農業新聞は経営とくらしに役立つ農業総合専門紙として高い評価を受けています。全国の農業情報満載です。是非ご購入を！



毎週金曜日発行 B3版 8～10頁建
購読料：月額700円（税込・送料込）

全国農業新聞のホームページ

<http://www.nca.or.jp/shinbun/index.php>